八代平野土地改良

1. 八代平野のすがた
2. 計画のねらい
3. 計画のあらまし
4. これまでの歩み
5. はじめの計画と現在の計画との相異点
6. 今後の見とおしと問題点

12、昭和三十六年度は継続して潮位、雨量、流量の調査を行なうとともに、農林省の直轄調査の採決のため、県選出国会議員及び協力会の市町村長各位の絶大な御協力を得て、農林省、大蔵省などに陳情の結果、当地域のみ全国でただ一つの直轄調査地域としての採択が決定した。

13、昭和三十七年一月、直轄調査について、今後の計画を農林省と協議した結果、次のような一応の見とおしを得た。

(1) 調査費の予算は総額一億九千万円ていどとする。

(2) 昭和三十七年度と三十八年度で予備調査をおこなう。

(3) 昭和三十九年度から五カ年間で本調査をおこなう。

(4) 本調査の結果にもとずいて着工。

(5) 工事は干拓特別会計でおこない、総事業費約百八十億円で、おおむね七年間で昭和五十年に完了する予定である。

計画のあらまし——☆

事業の概要は次のとおりである。

締切堤防 延長 七・六Km

（内 訳）

大 島～弁天島 一・九Km

弁天島～戸馳島 五・三Km

戸馳島～宇土半島 〇・四Km

締切り内総面積 九、〇六〇ha

流域面積 四一、七三〇ha

この流域から流集する洪水を調節して、農業、工業の用水源を兼ねた承水池（淡水湖）二千二百㌶を造り、内堤五十五キロメートルで囲み陸地を造成する。

造成陸地 六、八六〇ha

承水池（淡水湖） 二、二〇〇ha

（内 訳）

宇土承水池 一、三七〇ha

八代承水池 七五〇ha

日置川（工場排水を含むため隔絶した） 八〇ha

排 水

承水池に貯溜調節しつつ、締切堤防に設けられた排水樋門を通じて外海に自然排除する。

用 水

造成地の農業、工業の用水は淡水化された承水池を水源として取水する。

農業用地 五、九二〇ha

（内 訳）

耕 地 五、一三〇ha

宅地等 二五〇ha

用水路 六〇ha

排水路 一三〇ha

農道及び小堤 三五〇ha

工業用地 三三〇～一、〇〇〇ha

その他の土地 六一〇ha

（堤防敷、内部遊水池、幹線道路、公共施設用地等）

総事業費概算 一八〇億円

事業の効果は——☆

事業の完成により次のような効果が期待できる。

(1) **土地造成** 六、八六〇ha

(2) **用水の確保**

二千二百㌶の淡水湖によって農業、工業、上水道（船舶給水を含む）等の用水が豊富に供給できる。

(3) **農業構造の改善**

入植者千三百戸、地元増反者二千八百戸により、地域農林漁業の構造が改善される。

(4) **農業生産の拡大**

造成耕地は区画、用排水の施設などが近代的に整備されるので、先進的な農業経営が可能である。

このため需給の度合いを勘案した作目の編成が容易となるが、現段階では一応「米」と「畜産」を結びつけた経営をとりいれたい。

（生産物） （年間生産量の目標）

米 二二、六〇〇トン

牛乳 一三、〇〇〇キロリットル

肉牛 二、四〇〇頭

肉豚 一〇、〇〇〇頭

特産物 い草、そさいなど

なお、背後地の常水冠水地帯二千六百㌶についても、立地条件が好転し、飼料作物の導入などが可能となる。

(5) **工業の立地**

締切り堤防に接して最前面に工業用地を造成することによって、臨海工業地帯が形成される。一応の案として三百三十㌶を予定しているが、近年の工業の伸び、及び将来の産業開発の拠点として、飛躍的な発展を期待して、千㌶程度を考慮したい。

(6) **産業道路の建設**

幅約十四㍍の締切り堤防を利用して、八代～三角間の自動車道路とすることにより、この区間は十五キロメートル短縮され、さらに地域を縦横断する道路によって、陸上交通網は整備される。

(7) **港湾の建設**

臨海工業地帯の造成にともなって、海外貿易などのため大型の港湾が必要となるが、干拓埋立てに接して、港湾の建設が容易に進められる。

(8) **災害の防除**

締切り堤防により、内堤はその安全度が高められ、改修及び維持管理の費用が節減される。なお、この海域に流入する河川も洪水位が低下し、溢水や堤防欠壊の危険が減少し、改修費が節減できる。

むすび——☆

以上のように、不知火海締切り大干拓は多くの利益をもたらしてくれる国家的大事業である。

しかし、そのかげには、この事業のために、働く場所を失わなければならなくなる多くの漁業者がおられるわけである。

当然、このような人達の今後の生活の補償は充分考えられなければならない。

県はこのようなことを考慮して、いままでこの計画の推進にご指導、ご協力をいただいた各界各位のひきつづく御好意を得ながら、この事業をすすめていきたい。